

★L・M・モンゴメリ



「赤毛のアン」の作者「ルーシー・モード・モンゴメリ (Lucy Maud Montgomery)」は、1874年カナダ東部プリンス・エドワード島のクリフトン（現在のニューロンドン）で生まれました。モンゴメリが生後21ヶ月（一歳9ヶ月）のとき、母親が結核で亡くなると、父親はカナダ西部へ移住したため、モンゴメリはキャベンディッシュに住む母方の祖父母に預けられ育てられました。

出版社に勤めた際にヒントとなる題材を見つけ「赤毛のアン」を書き、小説の出版・結婚・出産等を経て1942年に死去。現在キャベンディッシュの墓地に眠っています。

「赤毛のアン」は作者自身がキャベンディッシュで育った少女時代も投影して描かれています。物語に出てくる「グリーンゲイブルズ」はモンゴメリのいとこが住んでいた家がモデルといわれています。また「お化けの森」「恋人の小路」も現在散策することが出来ます。残念ながらモンゴメリが実際に住んでいた家は取り壊され、その場所のみが残っています。

★キャベンディッシュを訪ねる

雑誌や写真集で「赤毛のアン」のモデルの場所があると知ったとき、プリンス・エドワード島のシャーロットタウン＝アンモデルの場所と思い込んでいました。なので「キャベンディッシュ」という町が‘モデル’だということを今回初めて知ることとなりました。

キャベンディッシュはアンのモデルとなった町という以外に、プリンス・エドワード島国立公園がある町としても知られており、モンゴメリの時代と変わらない景色を見せてくれます。昔と違うのは波により土地が削られて昔よりも侵食されてしまったことだそう。土は鉄分を多く含んでいる赤土が広がります。アニメの中でマシューがアンを乗せて馬車を走らせていた道も赤土でした。

コンチネンタル航空でニューヨーク（空港はニューアーク）へ行き、乗り継ぎカナダ・モントリオールへ向かいました。到着は夜中23時前。モントリオールで1泊し、翌日朝シャーロットタウン行き（終点）のバスに乗り、一路プリンス・エドワード島へ。乗換え1回を含め合計約5時間のバス旅。13時過ぎにシャーロットタウンに到着しました。昼食がてら一休み。ブラブラ散策してから16:20発のバスにてキャベンディッシュへ向かいました。

キャベンディッシュツーリストインフォメーションがあり、そこで町の地図をもらい早速グリーンゲイブルズへ。時間は17:00を過ぎていましたがまだ明るく、出歩くのに支障はありません。インフォメーションの近くにモンゴメリが眠る市民墓地があります。そこを通り過ぎ、くだり道をしばらく歩いて左に曲がる道を行くと駐車場が広がります。その先にグリーンゲイブルズはありました。時間外だったので中の見学は明日。今日は「お化けの森」をちょっと散策。うっそうと茂った木々が空を隠し、更に暗くなるとやはり怖いかも…と感じる雰囲気でした。



キャベンディッシュの夜は早く…一休みしてから夕食をと思い、部屋でゴロゴロ。20時過ぎに敷地内のレストランへ行き夕食をとりたい旨を伝えたところ…20時で終了と言われました…。どう見ても他にレストランらしきお店はなく…しかたなくレストラン目の前のガソリンスタンドにあるショップでサンドイッチを購入して夕食代わりです。レンタカーがあれば何の問題もありませんが、車がない場合はお気をつけ下さい。



プリンス・エドワード島を観光するならレンタカーが便利です。モンゴメリやアンゆかりの地を訪れるならば必須です。ない場合はツアー参加がベストです。

今回はツアーへ参加し、プリンス・エドワード島国立公園・モンゴメリが眠る墓地・グリーンゲイブルズ・郵便局・モンゴメリの生家・モンゴメリ博物館（近くに‘きらめきの湖’がある）・ケンジントン駅舎を巡りました。移動は小型バス。窓か

ら流れる景色を見ながら思ったのは、北海道の美瑛をもっと広大にしたパッチワーク。車窓からは黄色い花と蕎麦の花が咲く景色と至るところでジャガイモ畑を見かけ、もしお花が咲いている時期ならば、とてもきれいだったろうと思いを馳せました。

今回ツアーで巡ったモンゴメリゆかりの場所を一部簡単に紹介します。



★プリンス・エドワード島国立公園



大西洋沿岸地区の美しく特徴ある海岸風景を保護する目的で 1973 年に国立公園に指定されました。モンゴメリは当初、国立公園に指定されることにより、(観光客により)環境が悪化するのではと懸念し反対していましたが、国立公園の意義や環境保全に対する思いを理解し賛成したとのことでした。



★グリーンゲイブルズ



「赤毛のアン」の舞台となったマシューとマニラの家。ここに孤児院から引き取られたアンが加わり物語が始まっていきます。

実際はモンゴメリの祖父の従兄弟に当る兄妹が住んでいました。現在は一般公開され見学ができるようになっており、「アンの部屋」「マシュー・マニラの部屋」など観光客を楽しませる工夫が施されています。この芝生の先に「お化けの森」。家の裏手に「恋人の小路」に続く道が続いています。



←アンの部屋

ドアには憧れのパフスリーブのワンピースが掛けられています。

割れた板→

これは…そうギルバードを殴った際に使用した黒板。さりげなく展示してあります。



★ グリーンゲイブルズ博物館



この部屋で結婚式を挙げました

モンゴメリの叔父の旧宅で1911年にモンゴメリが結婚式を挙げたお屋敷。現在はモンゴメリのゆかりの品々が展示されている博物館になっています。「赤毛のアン」に出てくる「輝く湖水」はこの家のそば。庭から眺める湖面は天気がよければ輝いていたかと想像します。

窓から「輝く湖水」→
が見えます



プリンス・エドワード島で食べる

★ロブスター



キャベンディッシュで午前中からモンゴメリゆかりの場所を巡るツアーに参加し、途中昼食にロブスターをいただきました。カナダ東海岸はロブスターが捕獲できる地域。レッドロブスターもこの地域のロブスターを空輸しているそうです。

現地ガイドさんが言うには、数十年前まではロブスターは、農業が盛んな農村部の人は食べず、比較的貧しい漁村民の人たちが食べていたとの事(昔国内の内紛で負けたフランス系の人たちが漁業に携わり、イギリス系の人たちには農地が与えられ、結果イギリス系の人たちに裕福層が増えた)しかし現在はロブスターを食する人口が増え、漁村民の生活を支えているとの事でした。

初めてまるまる1尾を一人で食べましたが、まずその大きさにビックリ。片方のつめは大きく、殻を割るのも力がいりました。中の身もビッシリとつまっており、何もつけずにそのままパクリ。う〜ん…塩加減もちょうど良く美味しい！お好みで溶かしバターや'みそ'をつけていただけます。同じプレートにのっているジャガイモの大きさにも驚きました。皮つきのまま蒸かされたジャガイモはホクホク。でもお腹いっぱい…。大満足の昼食でした。

★ チョコレートショップ「[Anne of Green Gables Chocolate](#)」



シャーロットタウンでアンの後ろ姿がかわいい看板のチョコレートショップがあり早速中へ。

店舗内では一部空間が仕切られ、そこでなにやら製造しているのが見えます。大量のポテトチップスを1枚1枚並べていき、チョコレートが上から降るところを通っていくと…ポテトチップスがチョコレートまみれ。チョコを乾かし袋詰めすると「PEI Chips」の完成です。北海道のお菓子メーカーの同じような商品よりはチョコの塗りがまだらですが、そこがカナダらしいのかも。塩味が効いていましたが、チョコの甘さとマッチし癖になる美味しさでした。

★アイスクリーム「COWS」



牛のキャラクターがかわいいアイスクリーム店。その名も「COWS」。世界一になったことのあるアイスクリーム店として有名とか。フレーバーは何種類もあり選ぶのに迷ってしまいます。アイスクリームの他に店内ではキャラクターのT-シャツや洋服様々なグッズを販売しており、それがまたかわいい。左写真は、映画「アバター」ならず「ムバターMOOVATAR」。

滞在中に「赤毛のアン」のミュージカルを観たのですが、劇中でアイスクリームの話が出てきました。アイスクリームを食べられる権利を得る為いろいろと競争をしていくのですが、なるほど、こちらもアイスクリームを食べたくなってくる感じ。ミュージカル終了後ホテルの帰路に着く途中の街角で、同じ気持ちになった人々がこのCOWSのアイスクリームに行列をつくっていました。